

内部ホタルの里を育てる会



活動紹介

■活動場所

内部地区には、波木・北小松・南小松・采女の4ヶ所にホタルが生息し、ホタルを守る会が組織されています。

■活動日、活動頻度等

ホタルに関する活動は、ホタルの育成に合わせた調査や活動で進めています。

■活動内容

- ①4～6月ゲンジボタルの幼虫上陸から蛹化・羽化の生態調査の実施。
- ②羽化したホタルを使って内部・内部東小学校 2校の3年生全員へ「ホタル教室」の実施。
- ③ホタルを観察しやすい地区(北小松地区)の自治会が主体の「ホタル観察会」の実施。
- ④各地区のホタル飛翔調査と水質調査の実施。
- ⑤ホタルを守り・育成を持続していくため、今年は下記⑥の太陽光発電所建設による悪影響度をきめ細かく調査しその結果をまとめることに注力した。
- ⑥内部地区内の太陽光発電所建設の話は、令和3年の7月に発表がされ、ホタルの会と業者との双方で「ゲンジボタルの生息地を残す」で基本合意し、その後6年度の春には工事を完成させ、8月には営業運転に入るものです。6年度のホタルの会の取組みは、ホタルの生息地の用水路と周辺の自然破壊レベルの調査を、業者側は専門業者による環境調査をおこないました。ホタルは年に一回しか発生しないので、この2つの調査は3年間に渡って実施して来ましたが令和7年度は設備が完成し営業運転に入ってから初めてのホタル飛翔年なので、建設業者とホタルの会が一緒になって調査し、緊張した結果まとめ作業でした。
結論としては…
太陽光パネル設備に密着した小川部分では「ホタルが激減に近いレベル」でしたが、小川と設備が15m離れた部分では工事前の状態とあまり変化がないホタル飛翔状態が確認できました。密着している部分は50m程度と小川全体の長さから見れば比較的短い距離だったので安堵しています。この状態を文書にまとめ、今後の参考資料として保管していきます。
- ⑦内部東小学校の校区内での「ホタル池作り」では、過去3度にわたる外部「桑名：ホタルと仲間の会」から入手した約50頭の終齢幼虫を放流し、その幼虫が上陸(蛹化)して羽化したホタルが飛翔するまで育った経験を3回(3年度)成功しています。
また、終齢幼虫ではなく一齢幼虫もホタル池に放流して、8ヶ月かけて幼虫を育てることに挑戦しましたが、どちらの幼虫がホタルの羽化に成長したのかがわかりませんでした。そこで一齢幼虫だけを放流した年度の結果、羽化はゼロでした。令和7年度に調査した推定結果はホタル池の底が砂礫だったのが数年間経過すると池底に泥が堆積し、ホタル幼虫やカワニナの棲息環境としてあまり良い環境ではないと考えております。それを物語る結果としてカワニナが年と共に減少し、現時点では棲息しているカワニナがゼロになってしまいました。
- ⑧「ホタル池」は山からの雨水排水溝を一部流用した池なので自然雨水が山にしみ込んだ溜水の浸み出し水だけでは流れがないので、ホタル幼虫が住みやすい流れをポンプによる水の循環水で強制的に作っています。そのため、時間と共にすこしずつ砂が入り込み有機物と一緒に泥化して堆積していると考えています。
- ⑨令和8年度は、この滞留している泥を極力掃除し、砂礫の池底にして一齢幼虫が育つように改修する予定です。そのために必要な装置(高圧洗浄機など)をそろえ、時期を見計らって作業する予定です。砂礫化がうまくいけばカワニナは近くの小川から捕獲して放流します。
- ⑩このホタル池は定期的に泥掃除が必要との結論に至ればそれを継続していく予定です。